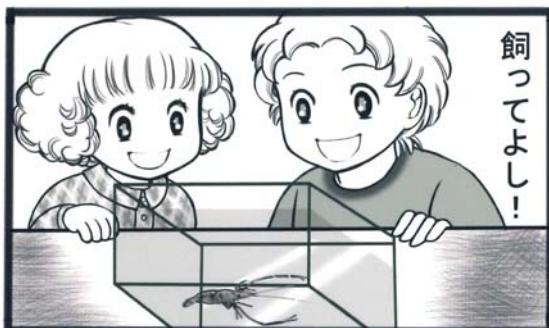
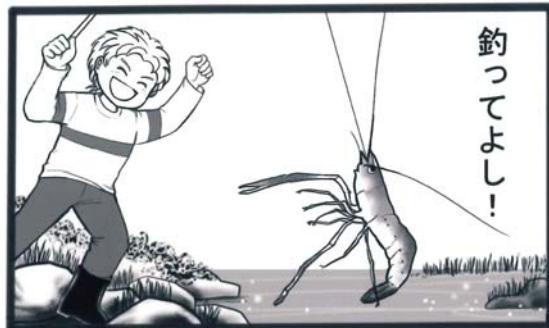


かきちゃん かほくがたチルドレン

ヒロ



第54回 テナガエビ

名前の通り手が長い、正確には第2歩脚とといいますが、さぞ不便だろうと考えてしまうくらい極端に長い鉗のついた脚を持っています。オスでは、体長の1.8倍にもなるそうです。下流域から汽水域に生息しています。

そのユニークな姿から、自然観察会ではいつも人気者です。本州には、テナガエビ、ヒラテナガエビ、ミナミテナガエビのよく似た3種類がありますが、河北潟ではいまのところテナガエビだけが生息しているようです。また、河北潟には近縁の種としてスジエビが生息していて、テナガエビよりは生息量は多いようです。

一時期、河北潟での自然観察会や生物調査では、ほとんどテナガエビが捕れず、スジエビも少なくなっていましたが、この1~2年は、かごわなを仕掛けておくと、よくテナガエビが入るようになりました。河北潟にテナガエビが戻ってきているようです。テナガエビがどれくらい減っていたのか、どれくらい増えてきたのかは詳細な調査を行っていませんので確かなことは言えませんが、甲殻類好きからすると嬉しい状況です。

河北潟のオオクチバスが減っているとの噂がありますが、以前に河北潟のバス釣りのグループから、バスが主に食べている餌はエビだということを聞いていましたので、バスの減少に伴い捕食圧が減ったことで、テナガエビが目立つようになってきたのかも知れません。

テナガエビがよく捕れるのは、湖岸のヨシやマコモが生えているあたりです。河北潟の湖岸植生は湖岸の沈下などの影響もあり、衰退傾向にありますので、生息に適した場所が増えているということはではないと思われます。河北潟の複雑な食物連鎖の中で、オオクチバスの減少やテナガエビの増加が起こっているのだと思います。長期的に見て増えていると思われるアオサギや、逆に減っていると思われるアメリカザリガニ、ここ20年くらいで相当増えたと思われるアカミミガメなど、河北潟の動物群集はダイナミックに変化しており、残念ながら安定した状態とはなっていないようです。テナガエビが増えたのも、一時的な状況かも知れません。

テナガエビは、河北潟では本来は食用とされ潟漁の対象でした。小規模な漁ですが、地元での消費だけでなく、テナガエビを県外に出荷していたり、売り歩いていたという話を聞いたことがあります。将来的には、河北潟の潟漁が復活することを願っていますが、そのためには、テナガエビを有用な水産資源と捉えて、持続的な資源確保の観点から生態系の管理を考えいく必要もあると思います。（文：高橋 久）